



雲晴

春彼岸号

「雲晴」第五十八号

令和八年三月一日発行

貞林院 瑞正寺

〒125-0041 東京都葛飾区東金町五丁目四六―五
電話(〇三)三六二七―三四一五
FAX(〇三)五六九九―五九一五

譚バラード歌

⑦ 恩と仇

仏典の中には、人間の性能を譬喩ひよしたさまざまな喩たとがある。

ある日、猿が山の中を餌を探しながら歩いていると、どこからともなく苦しげな声が聞こえてきた。

谷底に一人の旅人が傷を負い倒れていた。猿はこの旅人の傷の手当をし、背につかまらせて岩をつたい、路端に助けあげた。

「すまない」と旅人は心から礼をくり返しながらか、猿

の背に涙を流して感謝した。

しかし猿は力尽きて叢くさむらに倒れてしまった。

助けられてよろこんだ旅人は、力尽きて倒れた猿の姿を見て、心は一転した。どうせ再び会うこともない猿なのだから、殺してその肉をたべて力をつけて家に帰ろう

と思いつや、旅人はあたりを見渡して程よい石を探し求めて拾いあげようとした途端に、足を踏みはずし谷底に落ちてしまった。



この喩はまことに簡単なものであるが、その意味するところはまことに深いと思う。

一瞬にして急変する人間の性であり、自分本位の利得によって他を顧みる事のできない人間我欲のあらわれとしてまことに興味ある喩である。

我欲に生きる人間本性の様相が、手にとるようによくわかる物語りである。

しかも皮肉な事に奸策かんさくによって自らの命をおとしたのである。

所詮は人間がもつ悪業の循環について、想いを新たにしなければならぬ事である。

人を呪わば穴二つ、とは相も変わらぬ永遠の真理であろうか。

問題は、利他を忘れた自利の先行が恐ろしいのである。自利利他円満とは仏が説いた教訓である。

自らの喜びが他を愛する事であり、他を喜ばせる事が自らを愛する心境を学びとる事でありたい。



③春の昼間の仏像議論

春の光に包まれうつらうつらしている、風景の中に自分が溶けてゆくような感覚を覚えることがあります。

そんな春のある日を書いたのが、泉鏡花「春昼」



「春昼後刻」(明治三九)です。本作はのどかな散歩から幕を開けるものの、不穏な展開が続きます。主人公の青年は、訪れた寺の和尚から自分によく似た男の話聞くのですが、土地の女性に恋した彼は深夜山中で奇妙な幻想を見て、身を投げ死んだというのです。

「春昼」は溶けるような春の中で、人々が輪郭を越えて結ばれる物語です。彼らを突き動かす原動力になるのが恋情ですが、これをめぐり青年と和尚が交わす

興味深い議論があります。本作が発表されたのは、人々の信仰が薄れ仏像が単なる美術品とみなされはじめた時代です。弱気な謙遜をする和尚に対して青年は、恋人にひと目見ることが焦られるように、仏像を通して神仏の姿を見ることが必要なだと論じます。

これは聖なる信仰の領域と俗なる恋情を繋げる非常に思いきった論理です。しかし鏡花は信仰に宿る切実に人間の根源を見、その想いが託される存在として仏像を位置づけます。近代化により失われようとしていた世界を描き続けた作家を突き動かしたのもまた、そんな力であったのではないのでしょうか。

(富永真樹)



華

花ひらひて
實をむすぶ

好胤



⑬午年に思い出したこと

高田都耶子

よく行くデパート。キーマカレーが美味しそうな店を見つけた。やっ

と今日は行けると思った日、店の場所が分からなくなり、辿り着いた時はラストオーダーの18時30分の3分

過ぎになっていた。「あのう、まだ良いですか?」「いえ、ラストオー

ダーが18時30分なので入れません」と

とあっさり断られた。「またおいで

下さい」という言葉に送られて、もう来ることはありませんからと思いつつ店を後にした。萎んだ気持ちを抱きつつ目の前のエスカレーターで階上に行ったら、丸の内では中々入れないのを見た。丸の内では空いている。店に、姉妹店のここは空いている。店員さんの笑顔にも慰められる心地で入

店し、やれやれとパスタを注文し二〇ほど食べたところで、携帯が光り着信を知らせた。それは母の施設からの連絡で、「緊急ではありませんが」というのが常だったのに、「本日は緊急の連絡です。お母様が高熱を発して意識が朦朧とされています。今ドクターに電話していますが連絡がつきません」と。

一口法話



「涅槃図に思う」

「二尊のあわれみに外れ本願にもれ候べし」法然上人が示されたお念仏のみ教えは、お釈迦様と阿弥陀様の二尊による教えです。

仏教を開かれたお釈迦様はたとえ凡夫(愚かな身)でも阿弥陀仏の救いの慈悲は念仏の行者をいつも照らして下さると仰っしゃり、将来の我々に向け阿弥陀仏の本願念仏の教えを残して下さいました。涅槃図には、そのお釈迦様が、八十歳で人間としての命を終えられ、身体的な苦からも脱して完全な涅槃に入った場面が描かれ、たくさんの弟子たちや、菩薩、天界の神々、さらに動物や昆虫たちまでもが集まり、その死を悼んでいる様子が描写されています。

『涅槃経』には、お釈迦様の最後のお言葉として「すべては移りゆく、怠ることなく勤め励めよ」と形あるものは変化消滅してゆく。だからこ

直ぐに40年来の母の主治医に電話したところ、「後悔が無いように、救急車を呼んでもらってください」

とのアドバイス。それを施設に伝え

たところ、手配するから病院が決ま

るまで待機くださいと言われた。電

話を受けて、直ぐ店の外になきや

と広い店内を見渡したとき、遠く入

り口付近に1〜2組のお客がいるだ

けで私の座っている周囲には誰もい

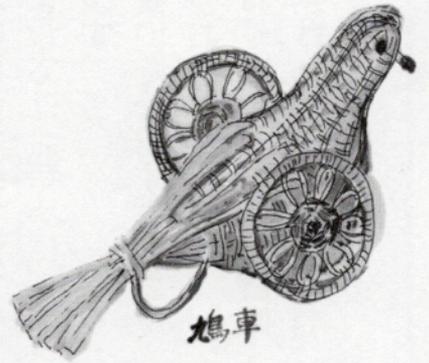
なかったのを幸いに、その場所

で掛かってくる電話にもメモを取りな

がら冷静に対応もでき、落ち着い

て病院にも向うこともできた。待機

している中、今夜は徹夜になるかも



増田淑子画

冷静に対処出来なかっただろう。電話のたびに出入りを余儀なくされて

いたことだろうと。不親切に思えた

ことでむしろ救ってもらった。

幸い母は的確な当直医の処置で、

程なく退院するに至ったので、後日

断ってくれた店には感謝の気持ちで

訪れてきた。落ち込む私を笑顔で迎

えてくれたカフェには、もちろん何

度も訪れている。嬉しいのは、どち

らの店にも感謝できていることであ

る。今回のこと知ったのは一喜一

憂せず、全てを感謝で受け入れてい

そ自分の目標に向かって精一杯勤め

励み、一生涯努力精進することの大

切さが示されています。

同様に、法然上人の最後のお言葉

として「愚鈍の身になして、ただ一

向に念佛すべし」とあるように、自

分自身の愚さをしつかり自覚した上

で、阿弥陀仏の本願を信じ、来迎を

願い、極楽浄土に往生したいとい

う想いを持ってお称える精進のお念

仏が強調されています。

私たちの為に、お釈迦様が残り、法然さまが伝えて下さった阿弥陀様の教え。ともどもに日々のお念仏に精進してまいりましょう

(知恩院布教師会ホームページより)

誘いの書



「学則不固」

故林 錦洞書

貞林院瑞正寺 住職 林 清方

中国の古代文字であります金文で書かれたこの作品は、平成十九年に毎年開催されている銀座での社中展に出品されたものです。「学べば則ち固ならず」という意味ですが、これは「論語」からの言葉です。

「論語」とは中国の思想家である孔子の言動を後にその弟子たちがまとめ出した書物であります。これは儒教の教えとしてまとめられた經典でもあり、人としてどう生きるべきか道徳

観などが説かれており、中国だけでなく日本を含む東アジアの文化や思想に大きな影響を与えました。「学則不固」とは、人はどうしても自分が経験して身に付けてきた方法に固執しがちですが、新たに学んでいくことで柔軟な発想や物事の考え方が生まれるというものです。私も家内も今年七十二歳を迎えます。先代が書家でもあり色々忙しく、早くに住職に教わることも多く大変ですが、幾つになっても学ぶ姿勢を忘れてはいけないという事でしょう。

春の彼岸法要のご案内

本年の春の彼岸法要につきましては左記のとおり行います。

塔婆をご希望の方は、お早めに電話・ファックス・メール等にて寺までお申し込みください。

三月二十日(金) 正午

塔婆料 三千円

回向料(お布施) 志納

【寺からのお願い】

年回法要(ご法事)のご案内につきましてはハガキにて、二ヶ月位前を目安にお送りしております。

ご法事のお申し込みにつきましてはお早めにご連絡下さいますようお願い致します。

またご法事の際には、ご供養いたします方のお位牌とご遺影をお持ち下さるようお願い致します。

なお、お茶のご用意をしておりますので、当日にご参加の大体の人数をお伝え頂ければ幸いですので、ご協力の程宜しくお願い致します。

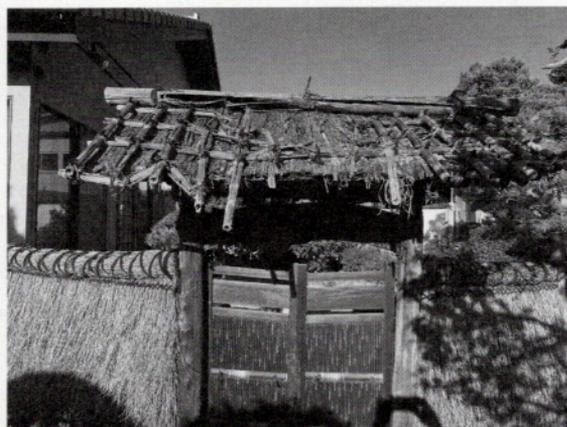
通路垣根と庭の門を 作り直します

寺の参道右手には、玄関に続く通路があり、庭との境に竹の垣根と庭に入る門があります。これは先代が昭和五十四年に庫裡を新築した際に庭の造成とともに作られたものです。その後平成二十二年先代一周忌の際に老朽化のため作り直しました。

この度竹も腐り、門の屋根も老朽化が激しく崩れ始めましたので、新たに作り直すことと致しました。工事中はどうぞ気をつけてお参り下さい。早ければ春彼岸まで、



竹の垣根は倒れています



門の屋根は崩れ出しました

または、お施餓鬼までに完成予定です。施工は浅田造園さんで、現在は二代目の親方です。先代さんから七十年近いお付き合いとあります。春秋のお彼岸、お施餓鬼、お盆、お正月の前にはそれぞれ来て頂き、お檀家さんが気持ち良くお参り出来るよう、庭の選定やお墓の掃除などをお願いしております。この度の費用につきましては、毎年頂いております寺の護持会費の積立金より出費させて頂きますので、護持会費につきましては、今後ともご理解とご協力を宜しくお願い致します。